

【介護（助）者の決定】

図 35 サービス提供先別介護者の決定（高齢協）

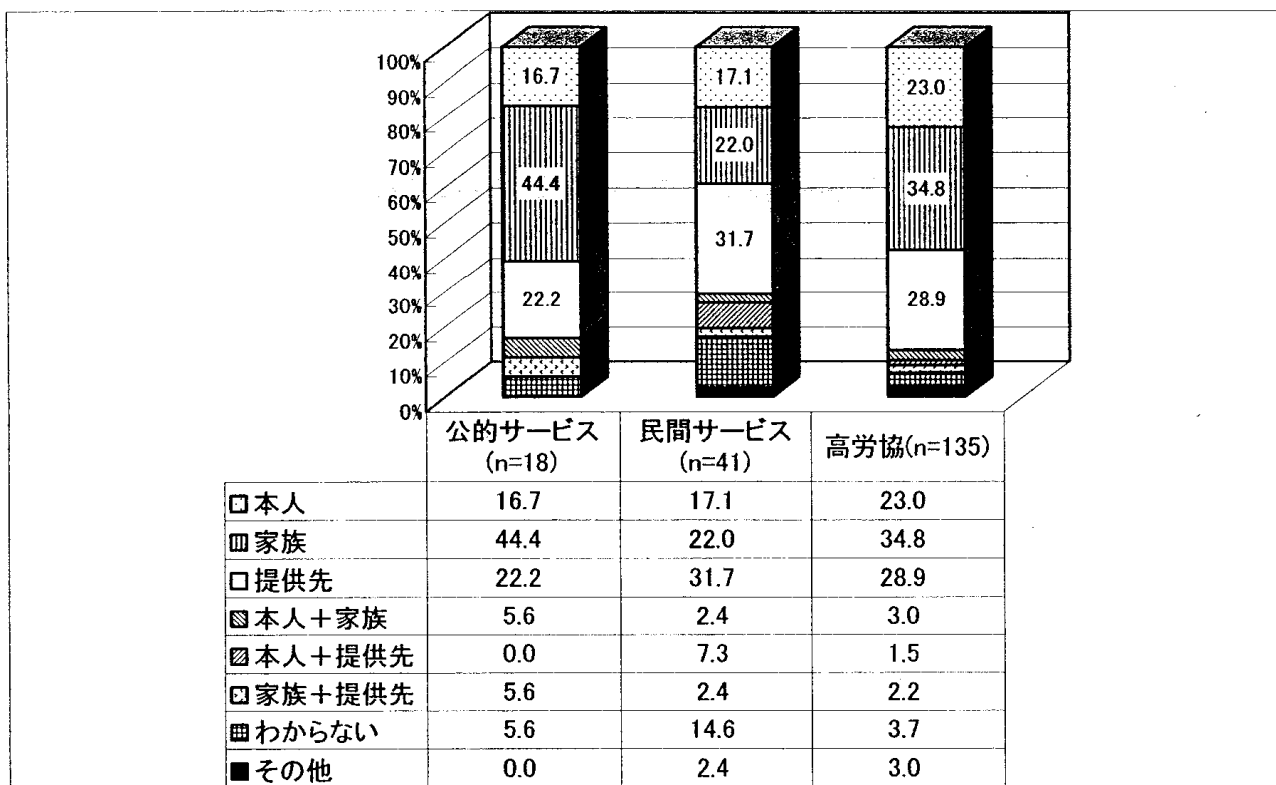
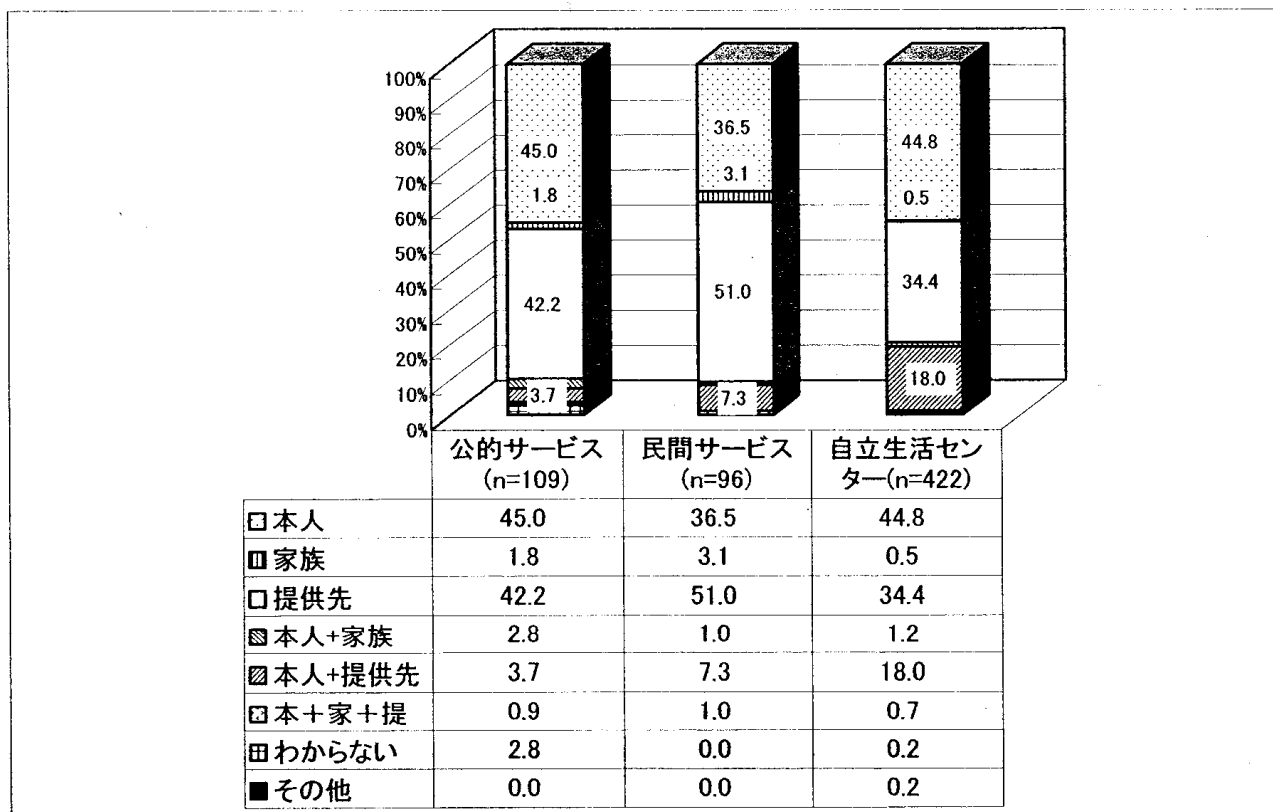


図 36 サービス提供先別介助者の決定（CIL）



高齢協

「誰が介護者を決定したか」の質問に対して、公的サービス、高齢協では「家族」(34.8%)が、民間サービスでは「提供先」(31.7%)の割合が最も高い。また、高齢協では、本人(23%)の割合が他と比べ高い。いずれの機関でも、「家族」の割合が高い(公的サービス44.4%、高齢協34.8%、民間サービス22%)。高齢協では「家族」の次に、「提供先」28.9%、「本人」23%と続く。公的サービスも同様の順。民間サービスでは「わからない」の割合が高く、14.6%に及ぶ。

CIL

民間サービスでは「提供先」が、自立生活センターおよび公的サービスでは「本人」が決定している場合が多い。自立生活センターでは、「本人とサービス提供先」の協力で決定しているケースが多いのが特徴である。介助内容の決定者に、ピアカウンセラーが多かったことから、自立生活センターではサービス提供先もピアカウンセラーとの協力で決定されることが多いと言えよう。

V介護（助）者の評価

【介護（助）者の評価】

図 37 介護者の評価（高齢協）

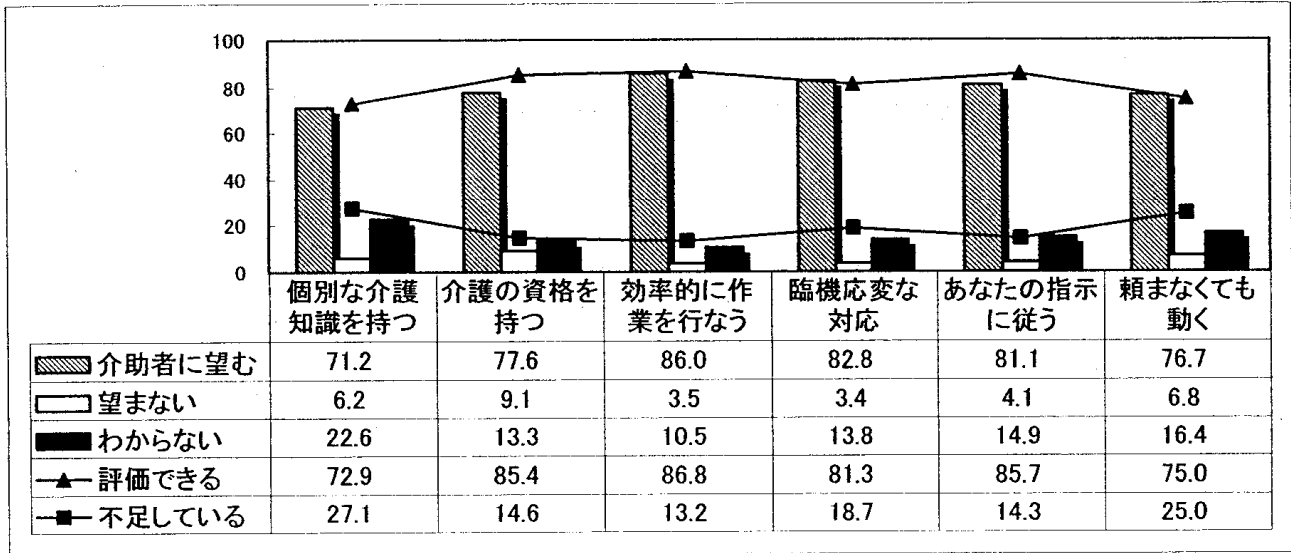
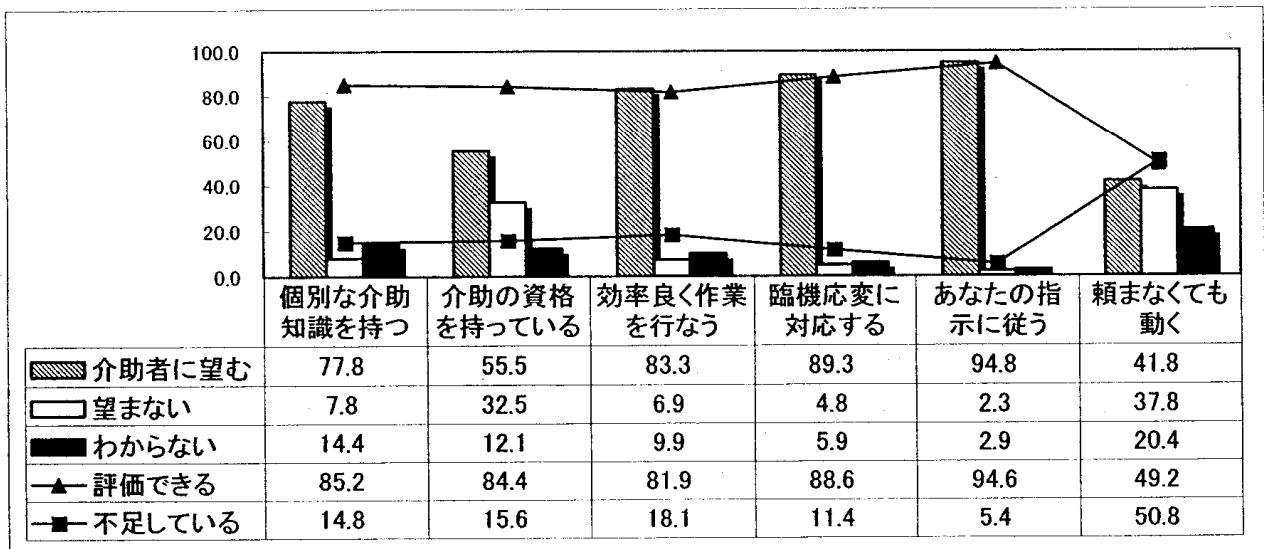


図 38 介助者の評価（CIL）



高齢協

介護者の評価は概して高い。介護者に望むのは、割合の高い順に「効率的に作業を行う」86%、「臨機応変な対応」82.8%、「あなたの指示に従う」81.1%。一方最も要望が低いのは、「介護の資格を持つ」9.1%。

現在の主な介護者に対する評価では、概ね高い評価がみられるが、「一般的でなく個別な介護の知識を持つ」点が若干低い。

CIL

介助者の評価は概して高い。介助者に望むのは、「指示に従う」「臨機応変な対応」「効率よく作業する」「一般的ではなく本人の介助に関して十分な知識を持つ」。要望が低いのは、「介助の資格を有する」「頼まなくても動く」。利用者からの要望は低いが、介助者はそれでも有資格者が多い。

現在の主な介助者に対する評価では、概ね高い評価がみられるが、「一般的ではなく本人の介助に関して十分な知識を持つ」点が若干低く、また多くの介助者が当事者の希望に関わりなく、ホームヘルパー等の資格を有していることが明らかになった。

VI 充実を希望するサービス

図 39 充実を希望するサービス (高齢協)

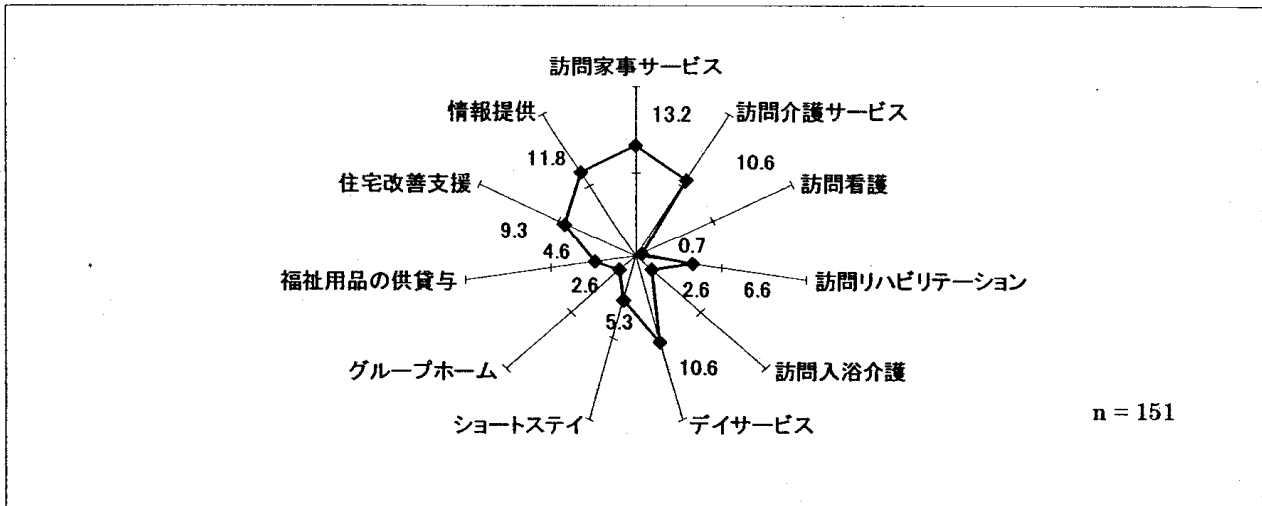
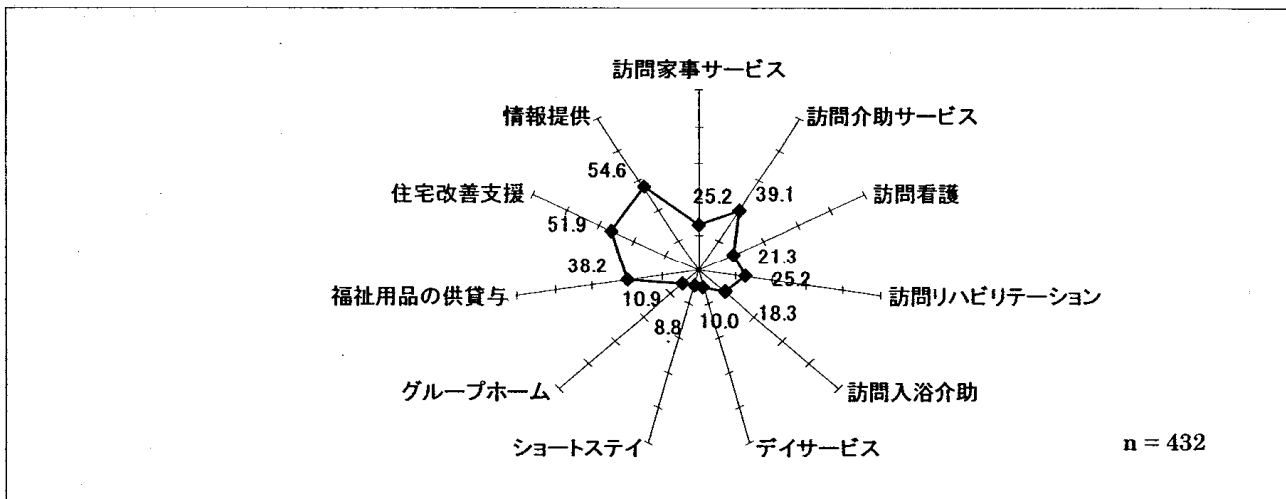


図 40 充実を希望するサービス (CIL)



高齢協 最も充実を望まれているのは、順に「訪問家事サービス」13.2%、「情報提供」11.8%、「デイサービス」10.6%、「訪問介護サービス」10.6%。逆に希望が少ないのは、低い順に「訪問看護」0.7%、「訪問入浴介護」2.6%、「グループホーム」2.6%。現状で十分と思う人は、55.6%。

CIL 最も充実を望まれているのは、順に「情報提供」(54.6%)、「住宅改善支援」(51.9%)、「福祉用品の供貸与」(38.2%)。逆に希望が少ないのは、「ショートステイ」(8.8%)「デイサービス」(10%)「グループホーム」(10.9%)。現状で十分と思う人は、14%。

【充実を希望するサービス（関連項目）】

表5 充実を希望するサービス（関連項目）

年齢	低い	「住宅改善支援」
日常生活動作	介護が必要な程度が 重い	「訪問リハビリテーション」 「ショートステイ」
居住形態	親族と同居	「ショートステイ」

表6 充実を希望するサービス（関連項目）

年齢	高い	「訪問リハビリテーション」
	低い	「情報提供」
居住形態	一人暮らし	「訪問看護」「訪問リハビリテーション」
	親族が介助者で同居	「ショートステイ」
一人暮らしの年数	長い	「訪問家事」
	短い	「福祉用品の供貸与」
日常生活動作	介助が必要な程度が 重い	「訪問看護」「訪問入浴介助」
介助サービス合計 利用時間	平均利用時間が多い	「訪問リハビリテーション」 「住宅改善支援」

高齢協 「年齢」、「居住形態」、「日常生活動作」、と充実を望むサービスの間には、統計的に有意な関連がある。

「年齢」が低い人ほど、「住宅改善支援」を希望し、「日常生活動作」で介護が必要な程度が重い人ほど、「訪問リハビリテーション」、「ショートステイ」を希望している。居住形態では、「ショートステイ」を希望しているのは、親族と同居している人に多い。

CIL 「年齢」、「居住形態」、「一人暮らしの年数」、「日常生活動作」、「介助サービス合計利用時間」と充実を望むサービスの間には、有意な関連がある。「年齢」が高い人は、「訪問リハビリテーション」を、低い人は「情報提供」を、「居住形態」では、一人暮らしの人が「訪問看護」、「訪問リハビリテーション」を、親族が介助者で同居している人は、高齢者と同様「ショートステイ」を、「1人暮らし」の年数が長い人は、「訪問家事」を、短い人は「福祉用品の供貸与」を、「日常生活動作」で介助が必要な程度が重い人ほど、「訪問看護」「訪問入浴」を、「介助サービス合計利用時間」が多い人ほど、「訪問リハビリテーション」と「住宅改善支援」を望む傾向にある。

VII 今後の利用量の予測

高齢協 「増えると思う」と「同じくらい」がほぼ同率。「減っていく」と思うのは 4.7%のみ。今後の利用量の予測と年齢の間には、統計的に有意な関連がある。「同じくらい」と予測している人の平均年齢が最も高く、「減っていく」と予測する人の平均年齢が、最も低い(高齢協版 26 頁図 38)。

CIL 今後の利用量への予測は「増える」54.7%「同じくらいのまま」33.4%「減っていく」11.9%。「減っていく」と予測する人は、一人暮らしの人の割合が多く、逆に「増える」と予測する人は介助者である親族と同居している人の割合が多い傾向にあるため、今後一人暮らしをすることを考慮してのことと推測できる。

図 41 今後の利用量の予測 (高齢協)

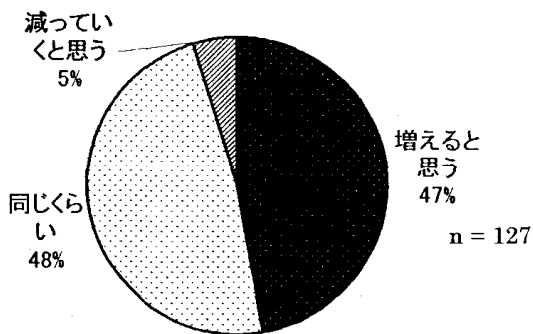
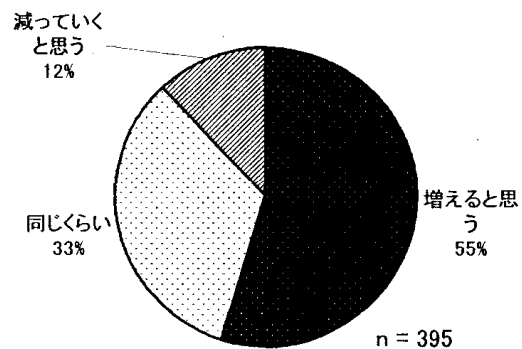


図 42 今後の利用量の予測 (CIL)



VIII サービス利用における抵抗感

図 43 サービス利用における抵抗感(高齢協)

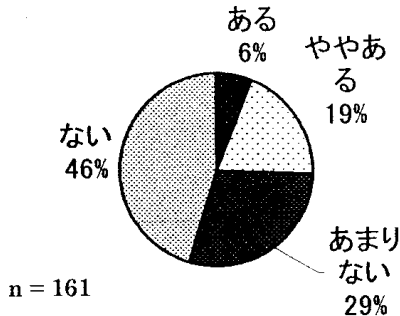
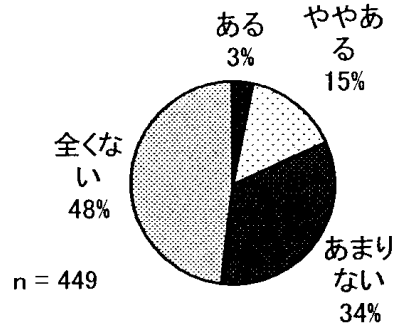


図 44 サービス利用における抵抗感 (CIL)



高齢協 75.1%の人がサービス利用に抵抗を感じていない。ちなみに、どの属性もサービス利用への抵抗感には関係していない。

CIL 8割以上の人がサービス利用に抵抗を感じていない。「全く抵抗感がない」人の利用合計時間平均は長く、「抵抗感がある」人の利用合計時間平均は短い(CIL版 24 頁図 32)。

【サービス利用への抵抗感の理由】

図 45 サービス利用への抵抗感の理由 (高齢協)

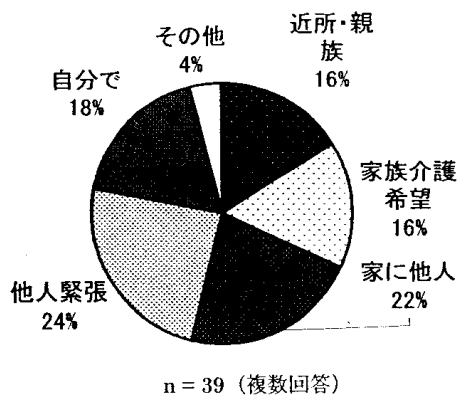
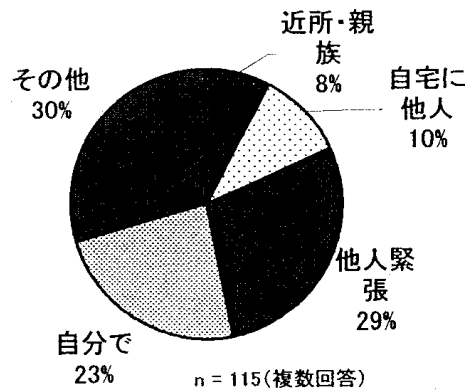


図 46 サービス利用への抵抗感の理由 (CIL)



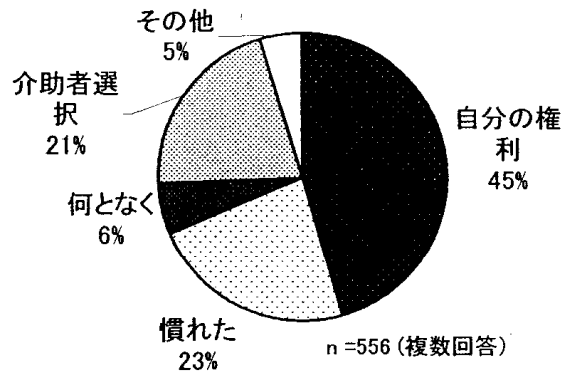
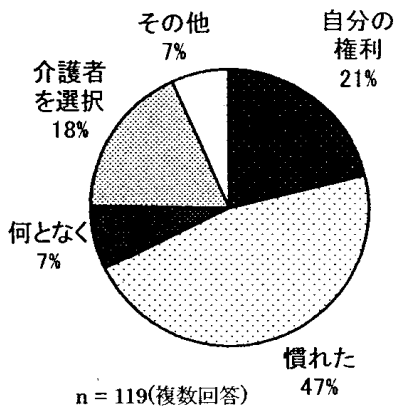
高齢協 サービス利用への抵抗感の理由としては、「他人と接するのは緊張する」、「自宅に他人が入るのに抵抗がある」の割合が比較的高い。

CIL サービス利用への抵抗感の理由として、「他人と接するのは緊張する」「できるだけ自分でやりたい」ことがあげられている。その他の記述項目の中では、「自分の時間がほしい」「介助者によっては、タイプが合わない」といった内容が比較的多かった。

【サービス利用に抵抗感のない理由】

図 47 サービスに抵抗感のない理由（高齢協）

図 48 サービスに抵抗感のない理由（CIL）



高齢協 抵抗感のない理由としては、「慣れたので感じない」が約半数を占める。

CIL 抵抗感のない理由としては、「自分の権利だから」「抵抗感のない介助者を選んでいる」の割合が高い。一方で、「慣れたので感じない」という消極的な理由もあげられているが、権利意識が高いことがうかがえる。

IX 社会参加

【社会参加の状況】

図 49 社会参加の希望・経験（高齢協）

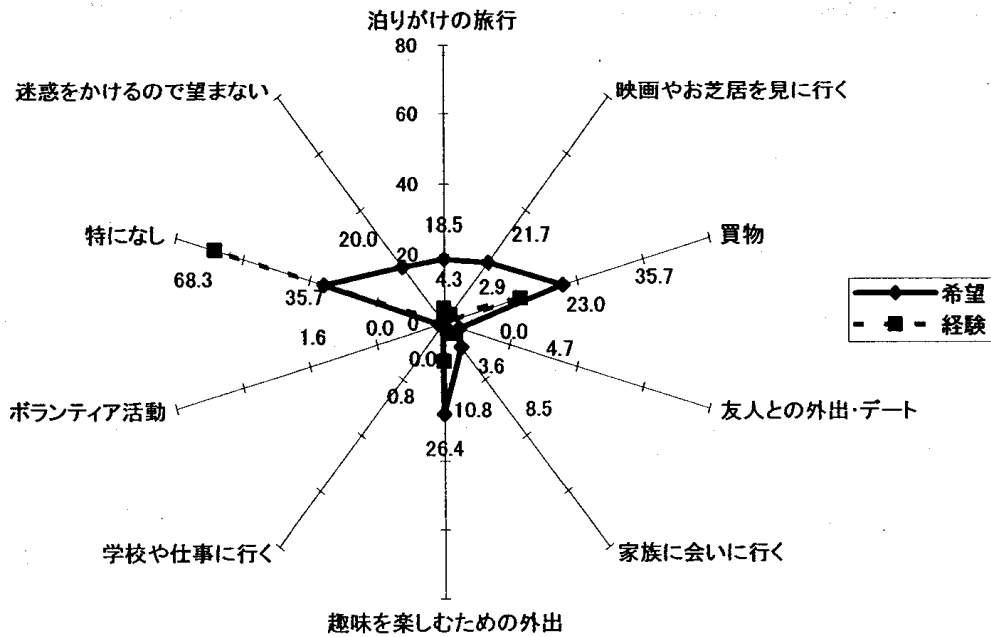
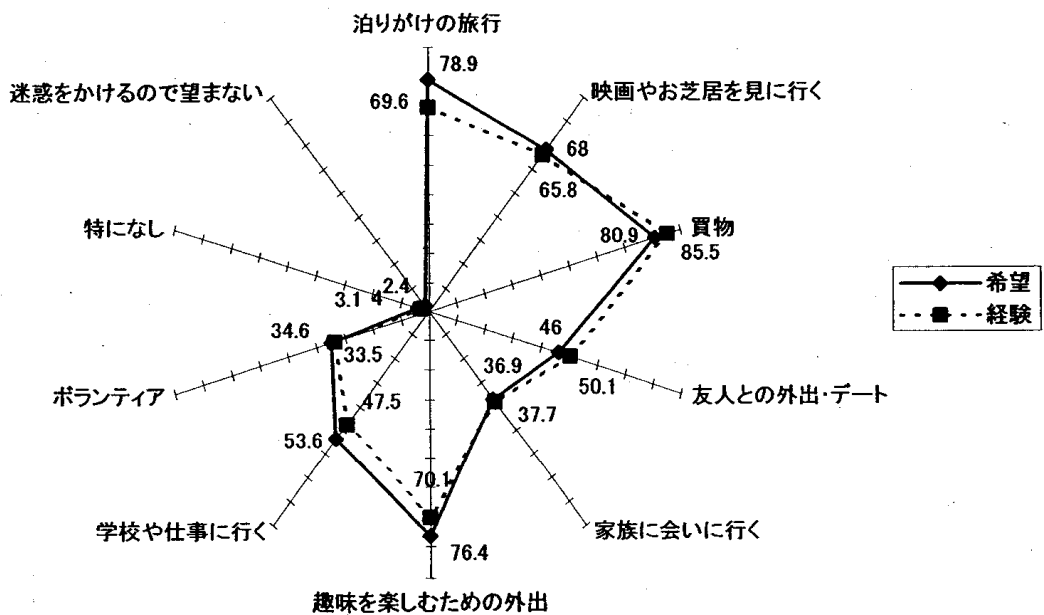


図 50 社会参加の希望・経験



高齢協

介護を利用しての外出経験のない人が、68.3%に及ぶ。「買物」「趣味を楽しむための外出」「映画やお芝居を見に行く」「泊りがけの旅行」を希望する人の割合が高い。一方で、35.7%の人が特に希望はなく、20%の人が「迷惑をかけるので望まない」を選択している。

年齢が高くなるほど、「特になし」を選択する率が多くなり、「特になし」を選択している人は、「迷惑をかけるので望まない」を選択している傾向があるため、社会参加への希望が障害者と比べて弱い理由として、年齢が大きな要因として考えられる。

CIL

多くの人が、様々なところに介助を利用して外出・参加を希望し、また実行している。障害が重い人ほど、介助を利用しての外出経験、希望ともに高い。日常生活動作とは、統計的に有意な関連があり、日常生活動作に介助が必要な人ほど、外出経験、希望がともに高い(CIL版 26 頁図 36)。年齢による統計的に有意な差はみられない。